

## 巻 頭 言

精神文化学会 会長  
近藤 剛

2022 年もコロナ禍にあつて、欧米の弱体化した民主主義と中露の強硬な権威主義の対立を軸に、世界は不安定な状況が続くものと予想される。しかし、コロナ禍で相互監視のシステムが定着し、同調圧力が常態化した民主主義国は自縄自縛に陥っており、実質的には権威主義に寄ってしまっている。

もちろん、中露のそれとはレベルが異なっているものの、ポリティカルコレクトネスの過剰な影響で自国の歴史、文化、慣習を平然と破壊し、左翼全体主義の流れに沿っているという意味においては大同小異と言えるのかもしれない。ポリティカルコレクトネスの原則に基づいた検閲体質、多様性の強要による水平化、いわゆる「文化闘争」の果ての不寛容社会、これはまさにディストピアへの一歩手前であろう。

20 世紀のアメリカを代表する神学者ラインホルド・ニーバーの「平静の祈り」——God, give us grace to accept with serenity the things that cannot be changed, courage to change the things which should be changed, and the wisdom to distinguish the one from the other.——にあるような、変えることのできないものと変えなければならないものを正しく見極める智慧を求めたいものである。そのことは、まさに健全な保守思想の再興を意味していると思われる。

本会が、そのための力強い一歩を踏み出すことを切望し、会員各位の一層のご協力とご支援を心からお願い申し上げる次第である。